

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子どもの野外レクリエーション							授業形態	演習	
科目コード	750056	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	遠藤 晃、岡島 直方、藤本 朋美								ICT活 用	○
授業概要	大自然の中での活動を通して、子供達は創造力、協調性、問題解決能力、コミュニケーション能力、身体能力など、様々な「生きる力」を身につけることができる。このような自然の教育力を活かすセンスやスキルを身につけることで、必ずしも山や海などの大自然の中だけでなく、校庭、公園など身近な自然を教育の場とした、子供達の心身の発達のための教育プログラムを立案・実践することが可能となる。 この授業では「子どもと自然」「エコロジー入門」などの講義で得た自然を活用した教育に関する知識や体験をプログラム化し、実践する際に必要となる知識とスキルを習得する。									
関連する科目	事前：「子どもと自然（必修）」「エコロジー入門」「子どもと園芸」「保育原理」「保育内容指導法（環境）」 事後：「環境問題演習」「ESD・環境教育論」「ESD・環境教育演習」「学校ビオトープ」「自然と昆虫」									
授業の進め方 と方法	3日間の集中講義とし、室内で理論や知識などを習得し（座学）、大学構内やフィールドセンターで、自然のなかでの活動を受講者自身が楽しみ、実感しながら（活動）、知識やスキルとそれを活用した教育に関する知識・技術を実践的に習得していく。									
授業計画 【第1回】	<1日目> 講義室、大学構内 no01：自然の教育力 / 「子どもと自然」を振り返る、考案したプログラムの実践にむけて（遠藤） ・「子どもと自然」のなかで、グループで考案したプログラムを振り返る。 ・子どもの自然体験が推進される背景と現状、課題について知るために、地球環境問題に関する世界の動向と我が国の対応、それに伴う各省庁の施策や制度、取り組み等を教育の視点から整理する。									
授業計画 【第2回】	no02：自然体験活動の意義とプログラムのモデル / Project Wild、Project Wet、MARE* など紹介（遠藤） ・子どもの自然体験を推進する具体的な取り組みについて、いくつかの事例と各省庁の施策との関係性を整理する。									
授業計画 【第3回】	no03：自然を活用したプログラム 1 / 自然と触れ合うプログラムについて（藤本） 大学構内で、自然を感じ、見つけ、それを言葉で表現し、受講者同士で共有するアクティビティを体験する									
授業計画 【第4回】	no04：自然を活用したプログラム 2 / 自然を理解するプログラムについて（藤本） 大学構内で、自然を感じ、見つけ、それを言葉で表現し、受講者同士で共有するアクティビティを体験する									
授業計画 【第5回】	no05：新しいゲームの創造、本日のまとめ（遠藤） 本日のまとめとして、学んだことを活用して新しいゲームをグループで考案し、発表する。									
授業計画 【第6回】	<2日目> 講義室、大学構内およびフィールドセンター no06：野外活動の安全管理 / リスクとリスクマネジメント（FC松島） ・リスクマネジメントの考え方やポイントについて、児童を対象としたツリークライミング体験の実践をもとに解説する。									
授業計画 【第7回】	no07：ロープワークの基本 ・実際にロープを使って、クローブヒッチやボーラインノットなど結び方の基本を学ぶ									
授業計画 【第8回】	no08：ロープを使った遊び 1 / ブランコ作り（環境園芸・岡島） ・ロープワークを使い、構内の樹木にブランコ等を作り、遊具として遊ぶ。 ・遊具の安全性について考える。									
授業計画 【第9回】	no09：ロープを使った遊び 2 / （遠藤） ・ツリークライミングの体験をしながら、リスクの抽出と回避について、実践的に学ぶ。									
授業計画 【第10回】	no10：ロープを使った遊び 3 / 新しい遊びの創造、本日のまとめ（遠藤） ・ロープを使った新しい遊びをグループ毎に考案し、他の学生を児童役として実際に体験の指導を行う。									

授業計画 【第11回】	<3日目> 講義室、大学構内（遠藤） no11：野外の歩き方 1 / 地図・地形図の読み方、コンパス・GPSの使い方 ・コンパスを使いながら方位を調べるだけでなく、角度を測ったり地図上の現在地から目的地へ向かう方法を身に付ける。 ・宮崎県が整備しているweb上の地理情報システム「ひなたGIS」を使って、小学校区にハザードマップを重ね、校区のハザードマップをつくる。
授業計画 【第12回】	no12：野外の歩き方 2 / オリエンテーリング（遠藤） ・前時に学んだ内容について、野外でコンパスと地図を使って実践する。
授業計画 【第13回】	no13：野外レクのプランニング 1（遠藤） ・これまで学んだ知識とスキルを最大限に活用して、自然を使ったプログラムをグループ毎に考案する。 ・グループ毎に、授業を振り返り、アイデアを出し合いながら、対話的にひとつのプログラムを創造する。 ・その際、リスクの洗い出しと回避方法についても検討します。
授業計画 【第14回】	no14：野外レクのプランニング 2（遠藤） ・これまで学んだ知識とスキルを最大限に活用して、自然を使ったプログラムをグループ毎に考案する。 ・グループ毎に、授業を振り返り、アイデアを出し合いながら、対話的にひとつのプログラムを創造する。 ・その際、リスクの洗い出しと回避方法についても検討します。
授業計画 【第15回】	no15：野外レクリエーション体験、まとめ（遠藤） ・他の学生を対象としてプログラムを実践し、その振り返りからプログラムをブラッシュアップさせる。
授業の到達目標	・自然の教育力についての知識を習得し理解を深める ・教育への活用方法を習得する ・習得した知識とスキルを使い、子ども向けの自然プログラムを企画立案と実施ができる ・野外活動におけるリスクとリスクマネジメントに関する知識とスキルを習得する
学位授与の方針 （DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)
授業時間外学習【予習】	毎回の講義毎に、座学については講義内容を振り返り、内容に関連して自分が考えたことをまとめて文章として記録し、体験活動については活動内容の詳細を記録する(1時間程度)。不明な点は、担当教員に随時相談すること。
授業時間外学習【復習】	毎回の講義毎に、座学については講義内容を振り返り、内容に関連して自分が考えたことをまとめて文章として記録し、体験活動については活動内容の詳細を記録する(1時間程度)。不明な点は、担当教員に随時相談すること。
課題に対する フィードバック	課題については、随時、解説を行う。
評価方法・基準	最終課題(30%) 講義への参画状況(関心・意欲・態度、20%) 講義毎のレポート(課題の達成度・理解度等、50%)から総合的に評価する。
テキスト	講義毎に資料を配布する
参考書	
備考	・天候等によって講義内容・開講日時が変更になることもある。4日間になることもあるので注意すること。 ・体験活動をする場合は、野外活動に適した格好で参加する。 ・安全確保の都合上、受講者数を制限する場合がある（希望者が多数の場合は、選定基準を明示したうえで受講者を決定する）。